

～高進路便り ～The sky is the limit～

vol.2

平成29年7月19日

文責：進路指導主任 野澤俊英

★夏休みを120%活用し、実力を養おう！！

いよいよ夏休みがやって来ます。時間が比較的自由に使える夏休みですが、この夏休みをどのように過ごすかは、今後の高校生活や受験に大きく影響してきます。受験に向けて好スタートを切るためにも、気持ちを引き締めて夏休みを有意義に過ごして下さい。

夏休みの過ごし方のポイントをまとめました。

(1) 無理のない計画を立てる。

学習内容を確実に理解するためにも、無理のない計画を立てるようにしましょう。週に1日「予備日」を設けるなど、予定通り進まなかった場合に計画の遅れを取り戻すための時間を用意しておくことも大切です。「あれもこれも」と欲張らずに、「最低限これだけは」という内容を重視し、必ず実行するようにしましょう。

(2) 生活のリズムを保つ。

夏休みも生活リズムを一定に保つことが大切です。学習を始める時間を決めておき、毎日同じくらいの学習量を確保できるようにしましょう。

(3) 課題を最優先で学習する。(1, 2年生)

まずは、夏休みの課題を確実に終わらせることを最優先にしましょう。夏休みの課題には、7月までの学習のポイントが多く含まれているので、課題にしっかり取り組むことで、復習もできます。また、課題は終わらせることが目的でなく、「課題を何度も解き直すことで、実力を養うこと」が目的です。早めに課題を仕上げ、何度も解き直して、実力を高めて下さい。

(4) 7月までの授業の復習に取り組む。

これは、お茶の水にある某S予備校の夏休みの基本戦略です。東大に受かる人も、前期の復習をすることから始めます。ノートを見れば、7月までの授業で膨大な量の勉強をしたことが分かるはずですが、しかし、その全てを理解し、覚えている者は、1万人に1人もいません。自分が時間をかけ、苦勞してやった予習。それを吸収するのは、今しかないのです。夏休みに復習しなければ、7月までの予習と授業内容を捨ててしまうようなものです。復習で、教科書レベルの基礎力を身につけることも言うまでもありません。

(5) 苦手分野の復習に取り組む。

時間がある夏休みは、苦手分野を克服するチャンスです。苦手だと感じている教科をここでしっかりと復習しておけば、受験勉強をスムーズに進めることもできます。

(6) 毎日の学習記録をつける。→日日新を活用しよう！

何時間学習したか、計画通りに学習できたかを毎日振り返り、「日日新」に記録するようにしましょう。毎日「日日新」を振り返ることで、すぐに軌道修正を行うこともできます。

(7) 中～後期を乗り切る。

夏休みの本当の勝負は、中～後期なのです。この時期になると、疲れも出始め、マンネリズムにも陥りやすくなります。多くの高校生の勉強時間が減り始めます。そうならないために、夏休みの中期、そして後期が本当の勝負であることを肝に銘じて欲しいと思います。集中できないときは、勉強のパターンを変えたり、学校の自習室を利用して勉強するとよいでしょう。また、担任の先生に相談することも大切です。この時期を乗り切れれば、秋以降の飛躍が期待できます。

夏休みを通して、目標と時間を意識して、直向きに取り組むことが肝要です。目標と時間を意識している人と、そうでない人とでは、半年後(1年後・2年後)に莫大な差がつくものです。

★オープンキャンパスは、「前」と「後」が大切！！

夏には多くの大学・短大・専門学校等で、オープンキャンパスが計画されています。進路室の廊下にもオープンキャンパスの情報を張ってありますが、ポスターを張り切れませんので、ぜひ進路希望先のHPで日程等を確認して下さい。自分の将来を決める学校選びに失敗しないよう、また、自分が進学後にどのような勉強をするのかということを知るためにも、ぜひオープンキャンパスを利用しましょう。志望校が決まっている人はもちろんですが、まだ決まっていない人も、「今気になる大学・短大等、行きたいなあ」とあこがれている大学・短大等」を見に行きましょう。

さて、オープンキャンパスで大切なのは、「前」と「後」です。まず、「前」ですが、自分が学びたいと思っっている大学・短大等の学部・学科の学問内容を調べましょう。自分が志望する大学・短大等の学部・学科では、具体的にどのようなことが学べるのか、その学問では今どのようなことが問題とされているのか、その大学・短大等の学部・学科にはどのような先生方がいて、その先生方はどのような分野を専門としているのか、大学・短大等で学んだことが将来の職業とどのように関連していくのか等を、徹底的に調べて下さい。オープンキャンパス当日は、学校の雰囲気を感じたり、大学・短大等の施設・設備を見学することももちろん大切ですが、何と言っても、どのような学問をするのかを知り、深めことが一番重要です。事前に調べたことをベースにして、オープンキャンパスでは、大学・短大等の先生（教授等）に質問しましょう。そして、できれば大学・短大等の先生の名刺を頂戴し、先生のメールアドレスを教えてください。

オープンキャンパスの「後」とは、大学・短大等の先生にメールを出し、大学・短大等の学問について自分が疑問に思っていることを質問してみることです。大学・短大等の先生からメールの返信を頂ければ、自分が興味がある学問分野についてさらに深く探究することができます。大学・短大等の先生とメールをやりとりする中で、「もっとこんな分野のことを調べてみよう」と思ったり、「この本を読んでみよう」ということになるかもしれません。その上で、「私は、□□大学・短大等の△△先生のもとで、〇〇の研究をしたい」ということを明確にすることができれば、自らの進路目標を支える大変強い志望動機を得ることにもなります。このことができてこそ、オープンキャンパスを最大限活用できたと言えるでしょう。

なお、オープンキャンパスは、複数行きたいものです。様々な情報を分析した結果、すでにたった一つの進路先に絞り込んでいるという場合を除いて、複数の大学・短大等のオープンキャンパスに参加することで、比較検討することができます。比較検討することによって、例えば、「A大学のB先生は、〇〇についての研究をされているが、私が本当に興味あることはC大学のD先生の研究だから、私はC大学を目指そう！」ということが可能になります。

十分な準備をすることなくオープンキャンパスに参加し、よく分からない「模擬授業」を受け、大学・短大等の校舎、施設設備、学食の雰囲気だけで大学の善し悪しを決めないようにくれぐれも注意して下さい。模擬授業が分からないのは、自分の準備が不十分だからです。明確な目的意識を持って、複数のオープンキャンパスに参加し、最大限の成果をあげて下さい。

★来年度4月に公立化する大学、国公立大学の新設、学部・学科の新設・改組について

諏訪東京理科大学が、来年度4月に私立大学から公立化します。諏訪東京理科大学は、今年度、国公立大学の前中後日程とは別枠で出願・受験できますが、昨年度私立大学から公立化した長野大学と同様に志願者の増加が見込まれていますので、注意して下さい。国立大学では、九州大学に共創学部・共創学科が新設されます。金沢大学・理工学部でも、学科の改組が行われます。公立大学では、長野県立大学（長野県短大を4年制化）、公立小松大学（小松短期大学を4年制化）が新設されます。地元の都留文科大では、文学部・初等教育学科、社会学科が募集停止となり、新たに教養学部・学校教育学科、地域社会学科が誕生します。首都大学東京でも、学部・学科の改組が行われます。この他、国公立大学・学部・学科の新設・改組については、大学の募集要項やHPで確認して下さい。